

## 修了にあたって

2011年を表す漢字に選ばれたのは、「絆<sup>きずな</sup>」の文字でした。苦しさの中でも、他人を思いやる被災地の人々の姿は、人と人とのつながりである「絆」を見つめ直す機会となりました。

私たち教員の仕事は、まさにその「絆」によって成り立っています。日ごろから一人一人の子どもの言葉に耳を傾け、気持ちを通わせること、また、教員同士、教育について本音で語り合うこと、そのような中で、私たちは「絆」を深めてきました。今改めて教員一人一人が、教育という営みの中で出会った感動的な人との「絆」を思い起こすとともに、これから出会う幾多の人たちと「絆」をつくっていくことが重要なのではないのでしょうか。

昨年11月に来日したブータンの国王は、東日本大震災の被災者に対し、「竜は私たち一人一人の心の中に存在し、「経験」を食べて成長します。だから私たちは年をとって経験を積むほど大きく強くなります。」という励ましの言葉を残しました。

これは、私たち教員に対するメッセージと捉えることもできます。私たちは、教育という営みの中で、様々な経験を糧にして、成長を続けていくことが使命だと考えます。

私たち長期研修員7人は、教職員研修課（3人）、授業づくり支援課（3人）、人づくり支援課（1人）へ配属されました。私たちは、自己実践を振り返るとともに、「中央教育審議会答申」や「学習指導要領」、「『有徳の人』づくりアクションプラン」等から、国や県の目指す教育の姿と教育現場の姿を比較し、課題を探りました。そして、所属する各課に関わる教育課題を把握し、個人ごとにテーマを絞り込み調査・研究を進め、ここに「平成23年度長期研修研修報告書」としてまとめることができました。本冊子が、読んでいただく方のお役に立てば幸いです。

この1年間、県総合教育センターという恵まれた環境の下で研修を積み重ねてきました。個人研究以外にも、各課で行われている研修への参加や、各界の有識者による講演の聴講によって、教育に関する見識を深め、視野を広げることができました。また、研究を進める中で、所長をはじめ、所員の方々よりいただいた助言は、成長への糧となりました。そして、互いの研究や教育観について語り合った仲間存在は、何よりの励みであり、心の支えになりました。こうした出会いにより、教員としてだけでなく、人として大きく成長する機会をいただいたと実感しております。改めて感謝申し上げます。

私たちは、今後も研修に励み、教員としての資質向上に努めていきたいと思えます。そして、長期研修で学んだことを学校や地域で生かし、静岡県の教育の発展に寄与できるよう、一層の努力を重ねていきたいと思えます。

最後になりましたが、この貴重な研修の機会を与えてくださった静岡県教育委員会及び各教育関係機関に感謝するとともに、私たちの研究に御協力いただいた学校、専門機関及び所属校の教職員の方々に、心よりお礼を申し上げます。

平成24年3月

平成23年度長期研修員一同